

卒業式が近づくと・・・

卒業式に向けての取り組みを始める季節になりました。毎年、この時期は、忙しい中で、子どもたちが巣立っていく寂しさと立派に成長してくれたという少し誇らしげな気持ちが混ざって複雑な気分になります。私にとって、子どもたち一人ひとりに卒業証書を授与できる名誉な機会を持たして頂けることは最高の喜びです。卒業生達が最高の笑顔で、本校で学んだことを誇りに思えるような卒業式にしていきたいと思えます。残された時間を子どもと一緒に楽しんで過ごしていきたいと思えます。



読解力を高める朗読の勧め

教育雑誌より面白い記事を見つけましたので紹介させていただきます。国語の宿題でもおなじみの「音読」を一步進化させ、人にわかりやすく伝わるように読むことで読解力を養う「朗読」がいま注目を集めている。



<1~2年生>小学校低学年では、なにより本に親しみ、声に出して読むことが大切です。声が出るようになったら、親子で登場人物を振り分けて読んだり、ナレーションとセリフを分担して読んだりするのもおすすめです。たとえば親子が登場する物語なら立場を逆転させて、親のセリフを子どもが、子どものセリフを親が読んでみるのも楽しいですよ。

<3~4年生>朗読の練習をしながら、親子で登場人物の設定を考えてみましょう。何歳くらいでどんな性格なのか、同じ人物でも違った設定を考えると、色々な読み方ができるはずですよ。ただ声に出して読むだけではなく、文章の意味や登場人物の気持ちを読み解くことで、読解力や表現力が高まります。

<5~6年生>1~4年生のポイントに加えて、擬音語・擬態語などの効果音を意識したり、実際のセリフと心の中の声の違いを考えて読んでみましょう。実際のセリフが誰か人と話しているのに対して、心の中の声は自分自身に話している内なる声です。もしかすると、反省だったり悔やんだりしていることが多いかもしれません。これは、登場人物の読み解く練習になります。

【保護者のかたは具体的なポイントを褒めて】

子どもの朗読を聞いたあとは、ただ「よかった」「うまかった」というだけでなく、「本では繋がっている文章を、この部分で切って読んでいたのでわかりやすかったよ」「リンリンというマツムシの声を聴いていたら情景が浮かんできたよ」など、具体的な感想を言ってあげてください。そうすることで、子どもはちゃんと聴いてくれるんだと安心しますし、相互のコミュニケーションが生まれます。また、昨日よりよくなった点を褒めてあげるのもいいでしょう。もちろん、お世辞を言うことはありません。直したほうがよいと思うところは、途中で遮らず、最後にアドバイスしてあげてください。その際も、「こうすればもっとよくなるよ」という、具体的にプラスな言葉がけができるといいですね。音読が声に出して読むだけの一方通行だとしたら、朗読は聞き手がいるコミュニケーション、反応があってこそ面白いものです。保護者のかたも上手に反応を示してあげて、朗読をお子さまの読解力アップに繋がられるといいですね。



今週、文集が配付されます。

今週、学校文集の配付を予定しています。子どもたちが一生懸命に作り上げた大事な宝物です。ご家庭でも家族でご覧いただき、子どもたちを褒めてあげてください。子どもたちの確かな成長の証が、そこにはあると思えます。大切にしてお返しと有難いです。



年次総会回答方法の変更について

1月7日付文書でお知らせしたとおり、年次総会回答方法が電子回答方法に変更しております。回答締め切りの2月4日(土)までにご回答いただけるように再度、お願いいたします。